

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2019年12月1日 195号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

孝情と挑戦



南米パラグアイ共和国、アルトパラグアイ州、プエルトレダ開拓20周年記念式典 東京・新宿 京王プラザホテル 10月14日



祝歌：竹ノ内美紀さん
「パンタナール讃歌」



開会の辞：中田欣宏 (一社)
南北米福地開発協会代表理事



来賓挨拶：田岡功氏
元駐日パラグアイ全権大使



来賓挨拶：廣野良吉氏
国連開発計画総裁顧問

レダ開拓二十周年記念式典を開催

南北米福地開発協会は、プエルト・レダ開拓20周年を記念し、去る10月14日(月・祝)、東京・新宿の京王プラザホテルで、記念式典を盛大に開催しました。20周年式典は、一昨年から計画され、昨年春の理事会で正式決定し、今般の開催に至りました。式典の目的は、20年を経過した今、これまでの歩みを総括し、新たな次元へと再出発するための契機としようというものです。併せて、当協会の特別会員はじめ、全会員の方々に対し、これまでの協力、支援への感謝とともに、ささやかな懇親の場を設け、寛いでいただきたいと企画したものでした。また内外から多数の来賓をお迎えして、当協会の活動全般について広く世に問う契機にしたいという試みでもありました。

その試みを推し進めるために、20周年記念集の出版も企画しました。この記念集はレダ開拓の提唱者の文鮮明総裁、韓鶴子総裁の「メッセージ」とともに、レダ開拓の意義、活動全般の紹介、現地スタッフたちの体験談や取り組みへの心情を掲載、当協会への理解の一助になればと刊行しました。

記念式典は、元パラグアイ共和国駐日大使の田岡功氏、国連開発計画総裁顧問の廣野良吉氏を発起人に迎えて開かれました。

10月14日午後4時からスタート。はじめにパラグアイ国歌「パラグアイ人たちよ、共和国か死か」、日本国歌「君が代」が斉唱されました。開会の辞として当協会の中田欣宏代表理事事が、この日の式典開催までの経緯と意義を説明するとともに、発起人はじめ、来賓の方々や出席者への御礼の言葉を述べました。

次に、式典に花を添える祝歌「パンタナール讃歌」を竹ノ内美紀さんが独唱。そしてレダ開拓20年の歩みを紹介する映像「孝情と挑戦の軌跡」を上映。参加者は改めてレダ開拓の現状を理解されたようです。

プログラムは進み、日系人初の駐日大使を務められた田岡功氏は、来賓としてこの日のためにパラグアイから駆けつけてくださいり「日本人は現地では絶対的信頼がある。パラグアイの良いところと、(4面に続く)

今レダ基地では



パラグアイ川の水位が下がるとともに、レダのリアチヨの上・中流部に広大な緑の草原が現れています。



レダは私有地。その規則を示す看板作り。制限速度25km。ゴミ、飲酒、狩猟は禁止。ニームの葉と花を乾燥して保存する作業。



気温上昇中。ピターチャの花が咲きました。



タロイモの長期保存のための食品加工研究より。



マンゴーを鳥害から保護。



タロイモの休耕田の雑草を干し草にする作業。収穫したタロイモは、直ちに川で洗います。



滑走路に土を盛り、均して固める工事の適期です。



発電機や車両を修理する、強力メカチーム。



アカハシリュウキュウガモ



キエリヒメウソのカップル。

観察と発見の連続で学ぶ、レダの日々



豚の世話をする土弘君（右）8月14日

土弘明憲（つちひろあきのり）君（24）は、昨年11月2日から本年10月11日までのほぼ1年間、レダ基地において、豚の世話をはじめとする骨の折れる活動に熱心に取り組みました。IT端末や電子機器のサポートでも多くの人から篤い信頼を得ています。8月26日より第19回青年奉仕隊に合流。神奈川県横浜市生まれ、神奈川大学工学部電気電子情報工学科卒。

Q .. レダ到着時の印象は？

A .. まず、暑いこと！ 肌が焼けて剥けました。でも思っていた以上に立派な建物があり、涼しいエアコンもありました。そして、土地の面積に対して人が少ないことが、レダの第一印象でした。



A .. 到着早々、新人恒例の40日間の釣り修行とDV学習の後、パクーの餌やりを2か月間、それから豚の世話を今年3月から9月末まで月から6か月間担当しました。

Q .. レダで担当したことは？

A .. 養殖、養豚とはとても大規模だったことです。諏訪さんほか、前任者たちがとても努力された養豚場ですが、さらにより良くして行こうとう気持ちで取り組みました。何かが壊れたら直し、豚に逃げられたら探して連れ帰るので、自分主導が求められました。魚や豚に関する知識もありませんでしたので、観察と発見の連続で学んで行きました。

Q .. レダで最も苦心したことは？

A .. 養殖、養豚ともに、私にとつてはとても大規模だったことです。諏訪さんほか、前任者たちがとても努力された養豚場ですが、さらにより良くして行こうとう気持ちで取り組みました。何かが壊れたら直し、豚に逃げられたら探しして連れ帰るので、自分主導が求められました。魚や豚に関する知識もありませんでしたので、観察と発見の連続で学んで行きました。

思えば、生きものを相手にできたことは、とても良かったと思います。「魚の立場に立つて考える」こと、「相手の立場で考える」ことを学べました。半年ほど経つて、「神の立場に立つて」「どんな思いで創造したかを感じ始めた時、感動がありました。

レダは価値のある場所だと実感します。特に青年たちは、レダに興味を持つて、積極的に来てください。



アキダバンで出発。10月11日夕食後、土弘君、三線は江頭君。9月26日夕食後、南米の空気感が陸に行くのが夢です。南米には球の各地に独特の魅力があり、百聞は一見に如かずだと思います。それぞれの心に想いを馳せてみたいのです。そこまで、創造主の心に想いを馳せてみたいのです。その現場に来て、文先生の構想を、その現場に来て、文先生の構想を、

Q .. 日本の皆様へひととことづぞ。

A .. レダに行きたいと言う人々が増えていました。文先生の構想を、その現場に来て、文先生の構想を、

自分も報われた、と思います。この夕食後、豚に関わらないと分らない喜びは、養殖や養豚に関わらないと分らない喜びです。

Q .. 将来の抱負をどうぞ。

A .. 五大洋六大陸に行くのが夢です。南米には球の各地に独特の魅力があり、百聞は一見に如かずだと思います。それぞれの心に想いを馳せてみたいのです。その現場に来て、文先生の構想を、

レダ開拓二十周年記念式典（一面より続く）
日の丸を背負つて頑張つて来た日本人の誇りを次の世代に引き継いでいくことが、私たち一世の大きな役目」と強調されました。

続いて発起人の一人でもある廣野良吉氏が立たれ、「世界平和の実現のために、先進国と開発途上国との友好な関係を築くため、レダ開拓の意義は大きい」と語られました。

この後、世界平和統一家庭連合の徳野英治会長から祝辞をいただきました。そして千葉市長の熊谷俊人氏、千葉市議会議長の岩井雅夫氏からの祝電が披露されました。それは千葉市がパラグアイ首都アスンシオン市と姉妹都市関係を結ばれていたからです。式典は進み、現地法人・南北米福地開発財団の共同理事長である佐野道准氏と中田実氏がレダ開拓の報告。佐野氏は、南米産のパクー養殖の実績、エビ養殖の展望、毎年実施している国際協力青年奉仕隊の成果、現地の学校支援活動の実情などを語りました。中田氏は、「50歳の時、レダ開拓に出発。当時は誰も住みたくないと言われた場所が、多くの人の犠牲と奉仕によって、今では「良きところ」と言われるようになった」と開拓の進展状況を報告しました。この後、20年の間レダ開拓を力強く支えてくれた



功労者たちに感謝状が贈られました。

く支えてくれた功労者たちに感謝状が贈られました。そして、齋藤俊樹理事(北日本総支部長)の音頭による万歳三唱で、午後5時50分ごろ第一部を終了しました。

あつという間に時間が過ぎて行く中、アメリカ南北米福地開発協会代表の奈田直宏氏が立ち、米国での支援活動報告をするとともに、「水産振興は将来の世界の食糧問題、健康問題の鍵を握る」と締めくくり、元気いっぱいの発声で乾杯を主導しました。最後に当法人の中田欣宏代表理事が、この日の記念式典が成功裏に終了したことへの謝辞を述べ、すべてのスケジュールを終了しました。

第二部では、バラグアイの伝統楽器アルパの演奏が、和やかな雰囲気を醸し出してくれました。演奏者は、アルパスタジオ・ソンリーシヤの菅原ふみさんと栗林波子さんでした。（文…和田、写真…石川）

一般社団法人
南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区
溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821
FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行 (旧一般会員会費納入)
記号10280 番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com
ホームページ:<https://asd-nsa.com>
Facebook:<https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>



20周年記念集。お求めは下記の事務局へ。

活躍してください」と励まされました。懇親会は佳境に達し、レダ開拓の中期ボランティアに参加した二人の青年が登壇。米田義明君は「私は、たくさんの命によつて生かされている。それをレダで実感し、心から感謝しました」と感想を語り、河野伊純さんは「レダ・プロジェクトは開拓された基盤の上に次世代へとバトンが受け継がれ、絶えず発展していくことでしょう」と将来に向かい、青年がレダ開拓に努めていくとの決意を語りました。

二人の青年の心意気に、会場は割れんばかりの拍手に包まれ、あちらこちらから「世代交代の時が来た。将来は彼らがいるので大丈夫だ」との声が聞こえてきました。

かれました。出席者はそれぞれ立食形式で用意された食事に舌鼓を打ちながら歓談しました。会場の各所から感嘆の声や談笑の声が流れ、和やかな時間が流れていきました。

懇親会に参加された方々からは、レダ開拓の労苦に敬意を表されるとともに、「これからも日本とパラグアイのために

会員種別

- ◆会員一口1000円／月
 - ◆特別会員一口1万円／月
 - ◆法人会員一口1万円／月

※いずれも口数は申込者が申告
会費は、毎月の引き落とし方式です。
会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

◆入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。



ウスタビガ

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局：
office@asd-nsa.com
へお願ひします。